

あけましておめでとうございます

旧年中は大変お世話になり心より御礼申し上げます。

また、台風15号19号により被害に遭われたご遺族の皆様、未だ避難生活を余儀なくされている被災者の皆様、復旧復興に奔走する関係者の皆様へ心より御見舞いを申し上げます。本道は幸いにも直接的な被害がありませんでしたが、未だ胆振東部地震からの復旧復興の真っ只中。今年は災害のない平穏な一年であることを願うばかりです。

さて、今年の干支は十干で「庚」、十二支で「子」、組み合わせて「庚子(かのえ・ね)、新たな芽吹きと繁栄の始まりの年だそうです。そんなカノエネの年、いよいよ中小企業にとって“働き方改革元年”というべき年となります。昨年から導入された様々な規制や義務化に加え時間外労働の上限規制が本格導入されます。職員の皆様、ご家族にとっても一番の関心事でしょう。お客様、お取引先各位におかれましても、様々な課題に直面され施策を繰り出す一方で、現状打破に試行錯誤の日々と察するところです。

昨今の働き方改革ブームにおいて、とすれば精神論や制度論に陥りがちですが、我々建設コンサルタントは自然と戦い、人に寄り添い、協働する仕事。予定通りに進む事など稀で画一的な机上の改革論は通じません。言葉だけの「ムリ、ムダの排除」、お経のように「生産性向上」などと唱えても何も始まりません。結局、いつの時代も求められるコンサル像は不変で、事の真髄を深く理解し考動できるかどうかにかき集約できるような気がします。

弊社では、様々な法規制や制度改革に伴う時間管理や残業抑制は手段に過ぎず、目的は“働きがい”改革であると考え、むしろポジティブに捉えています。悪しき慣習や常識、しがらみ(今まではそれで良かった事、法や制度が整っておらずマイチ踏み込めなかった事、などなど)を改め、制度を見直し、環境を

整えることが堂々とできる風潮になったことは歓迎すべきことではないでしょうか。もちろん一企業一個人では到底叶うわけもなく、官民あげて取り組む意義は極めて大きいと考えます。業務の当初ゼロ国設定、繰越などの平準化施策やWEB協議、入契の電子化、業務品質向上プロジェクト、BIM/CIM、クラウド、テレワーク、AI、、数え上げればキリがないほどのメニューが用意されています。BCPや災害対応も然り。それらを的確に捉え、実態を認めつつ、本質を見つめ、目的を持ち、社員にとってより良い環境となるようなフィルター(諸制度)を準備すること、それによってより良い結果(品質、待遇、使命・働きがい)に導くのが経営者の責務であると気を引き締めているところです。そして、その真髄を深く理解し考動できる本物のコンサルタントがこの改革を乗り越えていくと信じています。

今年オリンピックのマラソン・競歩が襲来します。冬季五輪はともあれ、こんなことは二度とないかもしれません。歓迎する市民、蘊蓄垂れる市民、ディスるメディアと怒る都民、困惑する関係者、、捉え方は様々ですが、決まったからには熱烈歓迎、熱烈応援しましょう! 同じコースを2周なのか、1周目だけはいよいよ、あと一周はもうちょい考えましょ、そして競歩は大通公園をグルグル、という段階(執筆時)ですが、少なくとも企業経営は同じ場所を周回するようではいけない!と自戒しているところです。

『スパイラルアップ』これが弊社の長期ビジョン(~2023年)のキーワードでもありますので。様々な「〇〇改革」がスローガンに終わることなく真の「芽吹き」と「繁栄」をもたらすよう、最後は、諦めずに、とことん、です。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げますとともに、本年もより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社エーティック

代表取締役社長 舟田 幸太郎



CONTENTS

- 社内技術発表会・特別講演
- 土木技術者列伝 第4回 斎藤静情 (文)井形 淳
- 対外発表紹介
- 道内トンネル文献あれこれ
- トンネル現地見学会・勉強会
- 技術者コラム 第8回 「勤め始めて」 (文)長原 融
- 下期安全大会 技術者倫理研修【入門】 社会貢献活動 リレーマラソン

2019年度 第27回 社内技術発表会・特別講演

2019年9月26日に毎年恒例の社内技術発表会が宮の沢の「ちえりあ」大研修室で開催されました。社員による技術発表6編の他に、お二人の講師に特別講演をしていただきました。



一人目の特別講師は一般財団法人北海道河川財団審議役(現専務理事)の鎌田照章氏です。「国交省での学び」という演題で、全国の河川行政でご活躍された多様なご経験から、その時々で得られた貴重な経験談を、ご当地情報も交えながら語っていただく内容となりました。

千歳川放水路計画の話では、石狩川の背水影響を受けやすく長期化しやすい千歳川流域の洪水条件から抜本的治水対策の必要性和、当初の放水路計画から堤防強化・遊水地造成案に変更した経緯、昭和初期に構想された石狩～苫小牧間の運河計画等をご紹介いただきました。

大河津分水路の改修の話では、湿地が広がる原初の信濃川下流の地形について、越後平野を守るために建設された分水路の目的と、昭和56年から3年続いた洪水により大改修が必要と



なった経緯をご説明いただきました。受益地域の各市町村の事業関心が低く、改修工事着手に苦慮されたご経験から、新規プロジェクトの取り組み段階における地域住民の理解の重要性についてご教授いただきました。

宇奈月ダムの排砂の話では、河口まで勾配が急な黒部川特有の河道条件、風化しやすい花崗岩類の地質構成が形成した広大な崩壊地、土砂流出環境と複数ダムの配置状況から課題となるダム堆砂について、分かりやすくご解説いただきました。この対策として複数ダムで洪水後に貯水水位を低下させ、流水とともに貯水池の堆積土砂を排出させる仕組みを作りました。平成13年に実施した初の連携排砂に向けては、過去に発生した水質汚濁と漁業被害等の再発を懸念する各団体や行政からの反対意見が上がる状況に対し、環境調査等の結果公表を徹底、反対する団体との意見交換・マスコミへのレクを、繰り返し丁寧に実施し、様々な対策を行ってようやく地元理解が得られたとのことで、間違いや誤解に対する誠実で真摯な対応の大切さを学びました。

国交省在籍中の最後に携わった胆振東部地震の災害対応の話についても触れられました。災害対応として厚真ダムの復旧、被災状況調査、土砂撤去等を実施など、災害対応を振り返り、北海道では初めての広域地震対応として、関係各所の連携不足やデマを含む様々な情報の錯綜、法や規則等を遵守した結果、臨機応変な対応が困難だった事例など、今後の災害対応に対するご提言をいただきました。

講演者



鎌田 照章氏

一般財団法人北海道河川財団 審議役(現専務理事)
NPO法人 環境技術研究センター 理事

職歴 昭和57年4月 建設省北陸地方建設局に採用 信濃川工事事務所調査課
昭和61年4月 北海道開発庁北海道開発局石狩川開発建設部計画課
石狩川総合水管理調査室 計画係長
平成元年4月 建設省北陸地方建設局 信濃川工事事務所 調査課長
平成10年7月 建設省北陸地方建設局 黒部工事事務所 所長
平成13年7月 北海道開発局 石狩川開発建設部 千歳川河川事務所 所長
平成15年7月 北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 所長
平成21年4月 北海道開発局 建設部 河川計画課 課長
平成23年4月 北海道開発局 旭川開発建設部 部長
平成30年7月 北海道開発局 事業振興部 部長
平成31年4月 退職
令和元年7月 一般財団法人 北海道河川財団勤務



児玉 淳一氏

北海道大学大学院 工学研究院
環境循環システム部門

職歴 平成4年 室蘭工業大学 工学部 助手
平成12年 室蘭工業大学 工学部 助教授
平成18年 北海道大学大学院 工学研究科 助教授
平成20年-現在 北海道大学大学院 工学研究院 准教授
平成23年8月-平成24年2月 ニューサウスウェールズ大学 客員研究員
平成28年-現在 河南理工大学 客員教授

研究テーマ ■ 岩石・岩盤の時間依存挙動の解明
■ 凍結した岩石ならびに凍結融解作用を受ける岩石の力学的挙動の解明と寒冷地における岩盤斜面の安定性評価
■ 露天掘り鉱山における岩盤斜面の動態監視技術と挙動解析手法の開発
■ 新しい石炭の地下ガス化技術の開発
■ 時間遅れを示すトンネルの変状に関する数値解析



二人目の特別講師は北海道大学岩盤力学研究室の児玉淳一准教授です。「健康診断のすすめ-鉱山の岩盤斜面を例として-」という演題で、健康診断の考え方に基づいた岩盤斜面の健全性評価の考え方について、とてもわかりやすくご説明していただき、実例を交えながらこれまでの研究成果をご紹介いただきました。

前半の話では、健康診断を例えに岩盤の健全性をどう把握するかの内容で、我々が健康を維持できるのは健康診断が重要であり、体の異常を早期発見することが早期治療の可能性を高めるという考え方が、岩盤の健全性でも同様と述べられました。健康診断で異常を発見する過程は、①定期的な健康診断の受診、②正常値を把握した上で診断結果を比較、③効果的な治療の実施、であり、これを岩盤斜面の健康診断に置き換えると、①定期的なフィールド計測の実施、②正常な挙動を把握した上で計測結果を評価、③必要な対策工の実施、であると説かれました。ここで特に重要な事項は正常値の把握であり、岩盤評価の場合ではこれは弾性的挙動であると言います。既往の岩盤評価では事後評価や事後解釈となることが課題であり、変形の適切な把握による異常の早期発見がいかに大切か、正しい計測のためには原因の推察に基づく変形予測(解析等)と考察が重要と説明されました。計測は健康(健全)状態を把握する要であり、目的を把握した上で目的に適した計測システムにより動態把握を行うよう、当社の調査業務にも通じるご提言をいただきました。

後半の話では石灰石鉱山をフィールドとした岩盤の計測事例についてご紹介いただきました。まず基礎的な事項として国内の鉱山事情についてご解説いただき、今後国内の資源獲得に向けた可能性と現時点の生産・操業状況などの事情を説明されました。その上で石灰石の露天掘り鉱山の残壁問題に着目され、採掘の進行により形成される長大化した残壁の存在と、斜面変形による危険性が高まっている問題について指摘しました。実例として、岡山県の井倉鉱山における伸縮計を用いた相対変位の計測結果から、採掘進行に伴う変形原因について三次元モデルを作成して弾性解析した事例、高知県の鳥形山鉱山(とりがたやま)においてGPSによる広域の変形計測を実施した結果を用い、有限要素法による数値解析を実施して広域ひずみと広域応力の推定を行った事例をご紹介いただきました。



社内技術発表会



技術発表会は、プレゼン能力向上、会社全体の技術力向上・情報共有を目的として毎年開催しており、27回目となった今年度は若手社員を中心に6編の発表がありました。発表者は経験した業務の技術的特徴や課題、解決方法等を紹介した後、質疑応答に対応しました。

審査の結果、「一般化貯留関数法の貯留指数に関する研究」を発表した設計部道路・河川グループ兼平技師(入社2年目)が最優秀論文賞を受賞しました。また技術発表の他に、胆振東部地震の社内対応概要が各担当者から報告されました。

最優秀論文:一般化貯留関数法の貯留指数に関する研究

【発表者】 兼平 藍璃
設計部 道路・河川グループ 平成30年度入社

【概要】

一般化貯留関数法では通常、貯留指数 $p_1=0.6$ が使われているが、ピーク付近が過少に計算される傾向がある。そこで本研究では、無次元化したS~Q曲線より求めた貯留指数 $m(=p_1)$ の値や、道内一級河川13水系の降雨・流出データ(466例)を用いた流出解析結果、及び貯留方程式と土壌特性の関係などから総合的に判断し、河道計画や流出解析にも活用できる全道河川で適応可能な最適な貯留指数 p_1 の値を提案する事を目的とした。

社内技術発表会を終えて

この度最優秀賞に選出して頂き誠にありがとうございました。選出して頂いた皆様、作成に協力して頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。

本論文は流出解析モデルについての研究ですが、専門的な内容が多く、発表の場で如何に簡単に伝えるかが一番の課題でした。作成時は多くの方に意見を頂き、「自分と他者との目線の違い」に気づくことが多く、とても勉強になりました。業務においても言葉で伝える事は非常に大切なことから、今回の受賞を励みに、より一層精進していきたいと思います。



斎藤 静脩

井形 淳

十勝川治水の父

斎藤静脩(さいとうせいしゅう)は十勝川、釧路川、常呂川の治水事務所長を務め、治水事業によって各河川流域を治め、北海道の発展に多大な功績をあげた人物です。

十勝川流域は大正時代まで開拓が進んでいない河川が多く、特に道東地区は度重なる洪水氾濫によって荒れた湿原地帯が広がっていました。非常に困難な治水事業をやり遂げた結果、洪水の抑制という本来の目的に加え、地域一帯に広大な農業生産圏を創出させ、十勝平野は田園イメージとしてブランド化される観光地帯へ発展することとなります。

大学で最先端の土木技術を学んだ斎藤静脩は、北海道庁で長い期間を道東の治水事業に従事することになり、やがて人々は彼を「十勝川治水の父」と呼ぶようになりました。



斎藤 静脩



旧十勝大橋跡 後方に新橋(平成8年建設)



統内新水路(現十勝川) 茂岩橋より下流を望む

川を治める!

斎藤静脩は1884(明治17)年に岩内郡泊村に生まれ、その後東京帝国大学に進学し、廣井勇に師事します。1911(明治44)年に北海道庁に入庁すると恩師である岡崎文吉の助手を務め、1921(大正10)年には釧路川・常呂川治水事務所長として新水路掘削(現在の新釧路川)の事業を主導し、大量の土砂流入による釧路港への影響を防御することに成功し、釧路川流域の開発に貢献しました。

1926(大正15)年には十勝川治水事務所長も兼務し、今度は十勝川の治水事業を推進します。この間には統内新水路の造成、今も現存する千代田堰堤の建設、治水事業以外でも十勝大橋の建設(現在は一部橋台が残るのみ)、十勝と日高を結ぶ黄金道路の計画立案など、各種事業に携わり、荒涼とした湿原地帯を現在広く知られる農村地帯に生まれ変わらせました。

1942(昭和17)年に北海道庁を退官後は、北海道開発コンサルタントの初代社長を初め、民間企業の立場から建設業界の発展に努めました。



井形 淳 設計部 次長 工学博士/技術士(建設部門)

今回は十勝川の治水事業を通じて、十勝平野を現在の農業地帯へと発展させた偉人をご紹介します。「連続テレビ小説なつぞら」では、草刈正雄演じるなつの祖父、泰樹が洪水の記憶を語っていましたが、現在の広大なパノラマ風景は、まさに小説通りの労苦と人々の努力に支えられた結果でした。当時の土木技術者の忍耐と開拓精神に大きな感銘を受けながら書かせていただきました。

〈略歴〉

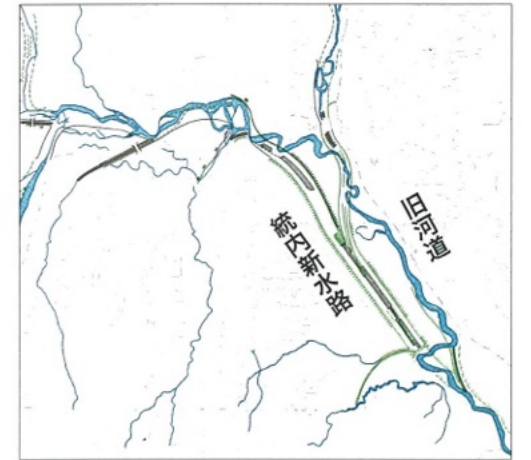
1967年 札幌市生まれ。1993年 室蘭工業大学大学院 建設システム工学修了、1996年 室蘭工業大学大学院 建設工学修了。
北海道開発局開発土木研究所勤務を経て、建設コンサルタント会社に勤務、2015年 (株)エーティック 入社

統内新水路と千代田堰堤

斎藤静脩の代表的な功績として統内新水路と千代田堰堤があります。十勝川と利別川の合流点付近は、蛇行河川と湿地が広がる水害多発地域でした。約15kmにわたって新水路掘削と堤防造成を行った結果、洪水被害が減少した上、周囲の水はけが劇的に改善され、農地開発が大きく進みました。

千代田堰堤は開通した統内新水路にあつて河床低下防止と灌漑取水を目的に建設されました。当初は落差2.84mの堰堤でしたが、昭和50年8月洪水で中央部の亀裂や河床の浸食など大きな被害を受け、この際の改築により現在のような落差6.48mの2段構造となりました。

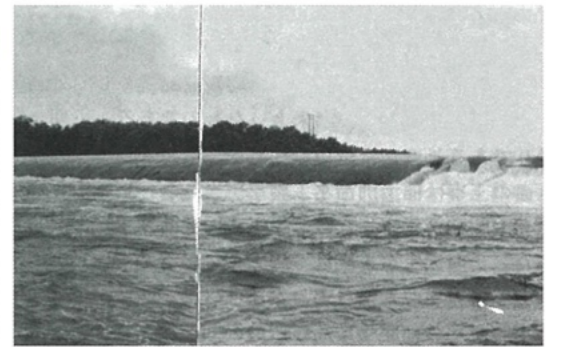
この結果、本来の用途である農業用水の供給機能を有したまま、サケ・マス の捕獲場として漁業利用されるようになりました。大きな落差をダイナミックにサケが遡上する光景は観光資源として反響を呼び、多くの人々から愛される土木施設となったのです。



統内新水路(十勝川治水史より)



現在の千代田堰堤



建設当初の千代田堰堤(十勝川治水史より)

昨今の気象変化により洪水規模が大きくなると、河川の流下能力向上が喫緊の課題となりました。このため千代田堰堤も取り壊しの危機となりました。しかし、当時の技術者達は斎藤静脩が遺した歴史ある堰堤の温存を選択し、堰堤の機能を残しつつ新水路を掘削することで現在の治水事業

を完遂させました。

かつて斎藤静脩が多くの労苦と情熱をかけて新水路事業を進め、十勝平野を生まれ変わらせたように、十勝川治水の理想と精神は、まさに現在に受け継がれているのです。



新水路に設置された分流堰 洪水時に開いて流下能力を確保する



新水路と千代田堰堤(帯広開発建設部HPより)

斎藤静脩が遺したもの

斎藤静脩は、野性的ながら人情味あふれた謙虚柔和な性格で、後輩や部下達から大変に慕われたそうです。

非常に多くの功績を遺した斎藤静脩でしたが、逝去の際には自身の遺言により葬儀や告別式を行わず、戒名すらも遺しませんでした。その面影を伝える像や遺影などもなく、十勝川の河畔には仲間たちが建立した、偉業を称える顕彰碑が鎮座するのみなのです。



十勝大橋のそばに建立された顕彰碑

論文名 ▶ 地表面の土地利用に配慮した小土かぶりトンネルの沈下対策 (トンネルと地下 2019年10月)

〈著者〉 古市圭典・山田遼 (函館開発建設部)/齊藤寛治 (伊藤組土建)/小原雄一 (エーティック)

〈概要〉

函館新外環状道路整備事業の一環として施工した見晴トンネルは、函館市街地に近接した全長799mの山岳トンネルである。本トンネルの特徴は、最大でも26.5mしかない低土かぶりトンネルということに加え、強度が低くスレーキングによる劣化が生じやすい新第三紀の泥岩に、安山岩が複雑に貫入した地質状況にある。本工事の課題は、ゴルフ場、函館市道、配水管(φ800)埋設部、および携帯基地局鉄塔の直下部における掘削を許容沈下量(30~50mm)の範囲内に収めて、地表面やこれらのインフラへの影響を避け施工することであった。トンネル掘削・支保作業を進めていくうえで、先進ボーリング調査結果から得られた地質分布構造と、地山物性を用いて二次元FEM解析を行い、沈下リスクをより実践的に管理して地表面の沈下量を許容値内に収めることができた。これにより、コストを要する過度な補助工法の採用を避けるとともに、現場条件に適した対策工をタイムリーに施工することができた。本稿では沈下対策として採用した掘削方法、および施工管理方法について報告するものである。

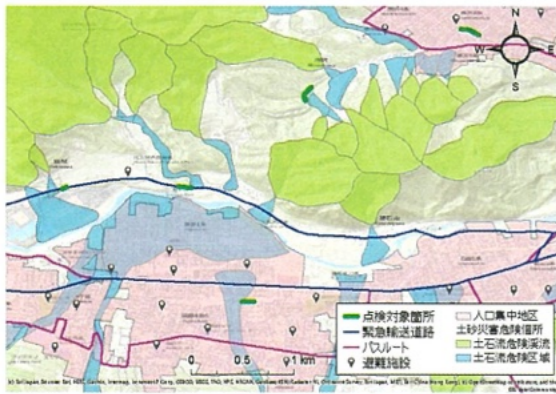


論文名 ▶ 特定道路土工構造物の点検業務におけるGIS活用の有効性の検討 (全地連技術フォーラム2019 岡山)

〈発表者〉 安曇涼花 (エーティック調査部 平成30年度入社) 共同発表者:菊山浩喜 (エーティック 調査部)

〈概要〉

降雨や地震などの自然災害の影響を大きく受ける道路土工構造物について、防災上及び効率的な維持修繕の観点から適切な時期を把握し、適切な対策を施すことを目的に、平成29年度に道路土工構造物点検要領が定められ、特定道路土工構造物は5年に1回を目安に点検実施が求められている。特定道路土工構造物は重要度1の道路土工構造物が抽出対象となるが、各種条件との関係性を把握して抽出するのは煩雑な作業となる。そこでGIS活用の有効性について検討を行った。GISの活用により各種データとの空間上の関係性が容易に把握できるようになり、上記問題の解決を図ることが出来た。今後の点検作業において、データベースとしての活用も期待できる。



優秀技術発表者賞(情報化・解析) 受賞

道内トンネル文献あれこれ (令和元年7月~11月)

専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介いたします。トンネル関係者の方へ最新情報を提供いたします。詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

■国道・道道他

- ①古市圭典, 菊池和彦, 成田望, 渡辺尚洋: 複雑な水文地質構造と周辺水利用に配慮したウォータータイトトンネルの構築—旭川十勝道路北の峰トンネル—, トンネルと地下, Vol.50, No.7, pp15-26, 2019.
- ②古市圭典, 山田遼, 齊藤寛治, 小原雄一: 地表面の土地利用に配慮した小土かぶりトンネルの沈下対策—函館新外環状道路見晴トンネル—, トンネルと地下, Vol.50, No.10, pp17-26, 2019.
- ③河崎貴紀: 道道泊共和線交付金(国富1号トンネル)工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.65, pp7-10, 2019.

■高速道路

- ④中野清人, 森田篤, 西村和夫: 施工事例にもとづく早期閉合の支保構造分析と支保の効果に関する考察, 土木学会論文報告集F1, Vol.75, No.1, pp7-25, 2019.

■新幹線・鉄道

- ⑤小塩崇之: 厳寒期を通したトンネル施工品質の安定化のための温度制御・養生設備 北海道新幹線、ニセコトンネル他, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.65, pp1-6, 2019.

■その他

- ⑥村山秀幸, 岡崎健治, 山崎秀策, 倉橋稔幸, 亀村勝美: 切羽前方地質の調査手法と地山評価における現状と課題に関する考察, トンネル工学報告集, No.29, pp1-9, 2019.
- ⑦亀村勝美, 倉橋稔幸, 岡崎健治, 山崎秀策, 村山秀幸: 先進ボーリングによる地山評価とその効果に関する考察, トンネル工学報告集, No.29, pp1-8, 2019.
- ⑧新井智之, 村山秀幸, オノ木敦士, 児玉淳一, 岡崎健治: トンネル変状の予測解析の精度向上に向けた地山—覆工間の垂直接触剛性の定量比の検討, トンネル工学報告集, No.29, pp1-6, 2019.

トンネル現地見学会・勉強会 (道道泊共和線 茅沼2号トンネル)

計測事業室テクニカルグループ 桂川優陽 (令和元年度入社)

10月29日にトンネル現地見学会・勉強会が開催されました。北海道土木技術会トンネル研究委員会 地方小委員会(小樽地区、札幌地区合同)の主催で、エーティックは事務局として毎年参加しています。

今年の見学会場は、道道泊共和線 茅沼2号トンネル。災害時に泊発電所周辺地区住民の迅速かつ確実な避難経路確保を目的の一つとして整備が進められている道路に新設されるトンネルです。

午前中、共和町生涯学習センターで行われた勉強会で概要説明を聞き、お昼の休憩を挟んでいざトンネルの中へ。安全面の工夫として取り組んでいる「見える化の推進」についてJVの方から説明を聞き、実際に設置されている電光掲示板や看板を確認しました。エーティックはこのトンネルで先進ボーリングを行っています。

当日は見学会のために作業は中断されていましたが、実際に弊社が携わる現場を見ることができ、とても貴重な経験となりました。



参加者 約80名



掘削機械をこんなに近くで見学!!



坑口で集合写真

技術者コラム (第8回) ... 勤め始めて 長原 融

年が明けると前の職場ではちらほらと人事異動・転勤の話が出て、挨拶・営業などで来られるOBの方々からいろんな情報を得ていました。

勤め始めた頃(約40年前)は定期的に3年ほどで異動がありました(2年で異動の人もいましたが)。課内で係が替わるスリッパ異動、市内での課所異動、住居の移動を伴う部内異動、同じ住居移動でも遠隔地(部外)への異動(例えば道北から道南方面、道央から道東方面)など、当時は異動に伴って住居移動はつきものとのイメージがあって、よく異動と共に引っ越しをしました(引っ越し貧乏だったかもしれません)。本人としては引っ越しは当たり前と思っていましたが、家族は毎回毎回大変な思いをしていました。住環境が一変して、全く知らない土地で知り合いもなく、人間関係を一から作っていかねばならない等苦労がありました。そして3年後にまた異動です。子供も同じく転校となります。今思えば家族には本当に苦労の掛けっぱなしでした。

毎年11月には身上調書の提出があり、ある程度本人の希望を記入していましたが、年を重ねていくうちに、空きポストがなかったりして、どうしても遠隔地への異動が生じました。若い頃は家族帯同で住居移動していましたが、子供が中学生になると高校受験等の関係で住居移動が難しくなって、住居を構え単身での赴任となり、それ以降単身の異動が10年ほどありました(5か所転居)。家族帯同での異動では、異動先に宿舎があるので民間のアパートを借りずに、宿舎費が安いので宿舎に入っていました。最近では宿舎に入居する職員が少なくて空宿舎が多くなっているようです。

異動により、新しい職場で気分一新して、また新しい仕事を始めることとなりますが、部門は同じでも各地域の事情があり、若干仕事の進め方、手続きに違いがありました。各地を回って色々な人と知り合いになったことが、今では財産となっていると思っています。

事務所の先輩方から「最初の1年目はお客さん、2年目で一人前、3年目には自分の担当の仕事に対してはプロフェッショナルにならなければならない」と言われ、職場の厳しさに身の引き締まる思いでした。今では在職2年での異動が多いようなので、より早く一人前のプロにならなくてはならないので、厳しい環境になってきたんだなと思います。当時はまだ職場に沢山人がいて全員でレクリエーションを行ったりと、どこかおおらかさがあつた気がします。仕事では主に工事の設計書作成(設計、積算)と工事の現場監督でした。今でも設計監督した構造物が残っており、その構造物を見ると当時の事を少し思い出します。若い頃のいろんな体験、苦しい経験、家族の協力等があつて、今の自分があると思っています。



長原 融 常務執行役員

〈略歴〉

1958年 旭川市生まれ
76年 旭川工業高校土木科卒業、同年北海道開発局旭川開発建設部に入局、河川部門を担当
網走、稚内、札幌(旧石狩川を含む)、室蘭開発建設部を勤務
2018年5月 (株)エーティック入社

下期安全大会

2019年度下期安全大会を『札幌市生涯学習センターちえりあ』にて、15社の協力会社を含めた75名の参加により開催しました。

今大会では、大成建設株式会社札幌支店土木部土木室長兼安全・環境推進室長 香山治彦様より『現場安全管理の取り組み方法～働き方改革version～』と題した安全講話をいただきました。講話では現場でやるべき安全管理のポイントに加え業務改善による効率化を紹介していただき、災害防止の意識を高めました。



技術者倫理研修【入門】

10月24日のエーティック安全大会において、日本技術士会北海道本部倫理委員会の花田真吉氏(中大実業)をお招きし、技術者倫理に関する講演を開催しました。前半は技術者倫理が普及した流れを歴史的背景も交えて解説して頂きました。また、平成11年に土木学会が制定した倫理規定に基づいて組織内の技術者が求められるものなど、基本的な事項を説明していただきました。後半は技術者倫理の事例問題が出題され、如何に



判断が難しく個人差が大きい問題かを痛感しました。今後の定期的研鑽で可能な限り考え方が社内統一され、より慎重に判断できる仕組み作りが必要であると、強く考える機会となりました。

こども夏まつり2019

8月11日(日)円山公園で開催された「こども夏まつり」に「輪投げコーナー」を出店しました。昨年、創立45周年記念事業で時計塔と掲示板を寄贈したのをきっかけに、今年で2回目の参加。地域の子供達とふれあい、お祭りを盛り上げました。当日は若手社員を中心に11名が参加。約150名の子供達に輪投げを楽しんでもらいました。売上金は、支援団体を通じて世界の恵まれない子供達の支援活動に寄付しました。



植栽ボランティア



9月7日(土)、国営滝野すずらん丘陵公園で役職員とその家族ら約40名が花の植栽ボランティアに参加しました。完成したプランターは公園東口ゲート前、入場口の階段下に並べられ来園客を出迎えました。

真駒内リレーマラソン

9月28日(土)真駒内リレーマラソンに精鋭7名が参加しました。

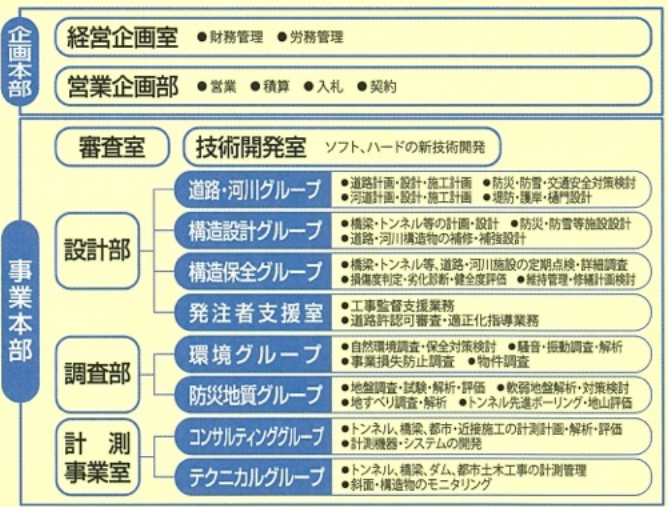


初出場の佐々木君に感想を聞いてみました！
42.195kmを2kmずつリレー形式で走るこのマラソン。私は4回、合計8km走りました。2キロを交代で走るので余裕だと思っていましたが、走ってみると全く余裕はなく、後半は疲れすぎてペースが落ち、こっそり歩く場面も多々ありました。それでも誰も怪我せず、全員で完走したときはとても達成感がありました。体を動かすことは好きなので、また参加したいと思いました。

株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 〈本社〉札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 96名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰 平成25年 北海道開発局函館開発建設部 優良工事・業務表彰受賞
空知総合振興局札幌建設管理部 優秀現場代理人・管理技術者表彰受賞
平成28年 北海道開発局札幌開発建設部 優良工事等表彰受賞
平成29年 札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行者表彰受賞
北海道開発局網走開発建設部 優良工事等表彰受賞
平成30年 北海道開発局室蘭開発建設部 優良工事等表彰受賞
令和元年 札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行者表彰受賞
北海道開発局札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞

組織図



編集後記

2020年はオリンピック・パラリンピックイヤーです！札幌もマラソン・競歩の開催が決定したので、ミーハーな私は沿道まで見に行こうかな～なんて考えています。オリンピック・パラリンピックを通して、2020年が活気に満ちた明るい年になると嬉しいです。本年もよろしくお願いいたします！
広報委員会 広報誌部会 エーティック女性社員一同